

2011年度・平成23年度 事業報告書

2011年・平成23年4月1日 ～ 2012年・平成24年3月31日

2012年4月1日

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

目 次 2011年度・平成23年度 くずは青葉幼稚園 事業報告		本書は16ページを以て成す
第1節	法人・幼稚園概要	3 page
第2節	2011年度・平成23年度 幼稚園運営指針	3 page
①	経営理念	4 page
②	本学園の使命	4 page
③	教育理念	4 page
	2011年度 教育指針・保育指針	4 page
	2011年度 異年齢児による教育活動の報告	4 page
第3節	自己評価の取り組み	5 page
第4節	子育て支援事業	5 page
①	預かり保育	5 page
②	園庭開放（未就園児子育て支援）	6 page
③	課外教室	6 page
第5節	教育環境設備の充実	6 page
第6節	納付金の減免	6 page
第7節	経営改善計画の策定 平成20年度策定?経営改善計画の取組み実績と今後の課題のまとめ	7 page
第8節	大阪府私立幼稚園経常費補助金	7 page
第9節	枚方市／平成22年度幼稚園幼児教育助成モデル事業	7 page
第10節	保護者交付各補助金	8 Page
第11節	組織運営体制	8 page
①	理事長・理事会の役割と責任	8 page
②	幼稚園運営体制	8 page
第12節	教員の資質向上	8 page
①	園内においての保育研究	8 page
②	園外においての研修	8 page
第13節	園児健康管理	8 page
第14節	職員健康管理	9 page
第15節	幼稚園行事（事業）の概要実施報告	9 page
第16節	学事報告	9 page
	平成23年度 学籍詳細	9 page
	平成23年度 就学小学校一覧	9 page
	学籍の推移と平成23年度学籍 [資料]	10 page
第17節	財務報告	11 page
第18節	その他の報告	11 page
①	未就園児教室の開講	11 page
②	未就園児（在園児）園庭開放の実施	11 page
③	小学校との連携・交流	11 page
④	ホームページの更新（情報公開）	11 page
⑤	高齢者との交流会	12 page
⑥	2011年度通園バス運行	12 page
⑦	2011年度給食実施状況・食育の取り組み状況	12 page
⑧	銀行借入金に関して	13 page
⑨	園則変更について	13 page
⑩	平成24年度事業計画策定に際しての特記事項	13 page
第19節	沿革	13 page

学校法人山口学園 くずは青葉幼稚園

2011年度／平成23年度 事業報告書

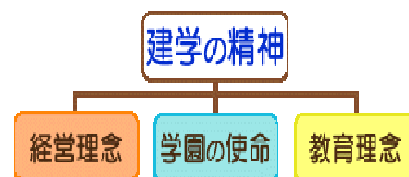
第1節. 法人・幼稚園概要

設 置 者	学校法人山口学園
学 校 名	くずは青葉幼稚園
所 在 地	枚方市北楠葉町38番1号
学 校 長 氏 名	園長 山口尚志
法 人 代 表 者	理事長 山口亨 副理事長 山口尚志 (法人の代表権を有する副理事長)
理 事 会	理事7名、評議員15名、監事2名 定例理事会 2回開催 (決算5月・予算3月、承認)
定員・実員学籍	定員400名 実員191名 (平成23年5月1日時点) [3歳児67名、4歳児67名、5歳児57名]
職 員 構 成	平成23年度 園長1名、主任教諭1名、教諭11名、園務員1名、嘱託バス運転手2名。以上正職員 [体育講師1名]
建 学 の 精 神	「たくましく人間性豊かな子どもをめざす」
そ の 他 I	以下の項目は、ホームページ [http://www.k-aoba.ed.jp/] にて詳細公開 (本事業報告書にての記載を略) 建学の精神・教育方針／指導方針・学園環境・保育概要・沿革 (本書第19節・P13に掲載) 2011年度教育指針 (本書第2節③・P3～4に掲載) 学費納付金・預かり保育・情報公開 [幼稚園概要 (事業報告・財務状況等)・課外教室・食育取組及び給食内容・感動の声 (保護者意見集)・推薦の言葉・保護者交付各補助金 (2011年度交付実績は、本書・第10節・P8に掲載)]
そ の 他 II	法人及び幼稚園連絡先 電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944 メールアドレス info@k-aoba.ed.jp 園章 

第2節. 2011年度・平成23年度 幼稚園運営指針

開園34年の実績を基盤に本園幼児教育の推進と充実を図るため、併せて「建学の精神」をより太くするため、年度初め (2011年度) に「経営理念」「学園の使命」「教育理念」の三つの柱を再認識の上、運営指針を定めた。この指針に基づき幼稚園運営を行なった。また、本園全体で実践している「異年齢児による教育活動」の充実を図るため、年度指針を設定した。

更に学年ごとに詳細の教育目標を設定、これを全教員共通理解を図り、幼稚園全体の教育内容の充実のため意志統一を行った。[2011年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については「学校評価」(2012年4月公開)の前段に掲載]



① 経営理念

多様化、複雑化する社会構造と教育構造の真意を捉え、次代を担う子どもの生育を真摯に考え変化を先取りする。また保護者ニーズの真意を捉え保護者との連携を構築し幼稚園教育の満足度を高めることをねらいとした。教職員は、業務並びに事業全てに対して「一生懸命な姿勢」を貫き、結果のみを重視することなく過程をも重視した教育を実践することを理念とし設定した。

教育水準の向上を図り、園の目的を実現するため教育活動及び学校運営の状況について自ら点検及び評価（学期毎）を行い、その結果を年度末（または年度初）に公表した。（2009年～2012年それぞれ4月公開）

また、園の教育活動その他の学校運営の状況について保護者等に対して積極的に情報を提供。さらに危機管理体制を構築し、安全な幼児教育環境を設定した。

公開する内容

- I くずは青葉幼稚園・学校評価
- II 財務状況（消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表・財産目録）
- III 本園の教育活動について出来るだけ公開し、幼児教育機関としての役割を果たす。（HP等の活用）

② 本学園の使命

保護者に文書並びにホームページを活用し、子育て情報、教育情報等を積極的に発信し、家庭・保護者教育力を高めることが成されるよう努力した。（上記、①－Ⅲ重複項目）

また、年間を通じて「園庭開放」を実施し、未就園児保護者も含め家庭との連携を深め子育て支援を充実させた。

③ 教育理念

2011年度教育指針・保育指針を全教員で年度初めに確認し共通理解のもと実践に取りくんだ。概要は下記の通り。従来の「幼児体育・健康領域」の重点指導はもとより、領域「人間関係」の重点的指導並びに環境構成に留意し「異年齢児」による教育活動を昨年度以上に推進した。その活動日・教育日数を年間において増加しこれに充てた。

※ 2011年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については。2012年4月公開の「学校評価」の前段に掲載。

2011年度・平成23年度 教育指針・保育指針

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境を整えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことに努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。それぞれの学年において2011年度に詳細の「教育目標」を設定し、保育に努めた。

※ 2011年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については。2012年4月公開の「学校評価」の前段に掲載。

2011年度・平成23年度 異年齢児による教育活動の報告

各学年並びに園全体の教育目標

- ◎年長 自分で考えたり、友だちと協力しながら、見通しをもって生活や活動を展開し、意欲的に園生活を送る
- ◎年中 活動や遊びの中で友だちと思いを伝え合い、受け入れながら自分の力を発揮し、意欲的に取り組む。
- ◎年少 基本的な生活習慣を身につけ、安定して園生活を過ごすとともに、自分の思いを様々な方法で表現し、友だちと関わる楽しさを味わう。
- ◎全体 異年齢活動の教育目標
 1. 異年齢の友達に親しみをもち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。
 2. いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。
 3. すすんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

異年齢活動取り組みの報告

異年齢保育は、人と関わる力を育み、経験の中で人への優しさやいたわる心を育てるということを確認した。園児は、子ども同士の関わりとたくさんの経験の中で「やってあげたいと思う心」「やさしくされて嬉しいと思う心」は「人と関わる力」となった。そして新しい人間関係を築く第一歩となった。

年間を通し、「教育目標・ねらい」を設定し取り組んだ。これらの幼稚園における「異年齢活動」がきっかけとなり、日常のあそびや登・降園での子ども達同士の関わり、預かり保育の活動時における子ども達同士の関わり方が、さりげなく自然になった。異年齢児の交流は、決して一方通行ではなく「やってあげるだけ」「やってもらうだけ」では成り立たず、「やってもらったことへの感謝の気持ち」「やってあげたことが、伝わった喜び」等、お互いが感じあうことが重要であると教員一同再認識した。友だちの思いに気づく、友だちのことを思いやる、それが「かかわる力」であり、友だちやまわりの人に助けられながら、特に年少児達は、少しずつ身につけはじめた。この取り組み、教育活動により本園の「建学の精神」がより太いものとなり、園児に意義ある教育活動並びに幼児の発達の援助が成されたものと認識している

第3節. 自己評価・学校評価の取り組み (第2節-①関連)

継続して評価項目に沿って「自己点検・自己評価」を学期毎に行い、教員自らが主観的に指導や子どもとの関わりを省みた。そして、総合評価として園長・主任による第三者評価を加え、それを客観的評価と位置付けた。また、学校関係者評価として本園父母会役員の方に意見を求めた。また、2011年度においては、本園理事会に報告の前に理事1名の方、また地域公人として枚方市議会議員の方1名にその内容を説明し、意見を求めた。これにより、学校評価委員は16名の構成とした。その結果、「特に指摘すべき事項・内容はない」旨の評価が成された。

これを2008年度～2010年度同様に新年度・2012年4月に「2011年度 学校評価・自己評価」として、ホームページにて公開を行った。[HP参照]

第4節. 子育て支援事業

① 預かり保育

17時30分まで園児を預かり、「預かり保育」を実施した。また、7月及び8月夏期休業中（夏休み）に20日間の実施を予定していたが、台風接近により止むを得ず1日は臨時休園措置を執ったため19日となった。さらに12月冬期休業中（冬休み）に2日間、9時より17時まで預かり保育を実施し、子育て支援事業として位置づけた。

尚、子育て支援事業の趣旨のみに非ず、従来の教育活動同様に「異年齢児による教育活動」と位置付け、子ども同士の関わりを深めるための指導や援助を実践し、子ども自らが育つ「子育て」の環境を調えた。

通常時・預かり保育／日数／利用人数等実績

通常預かり保育 4月～3月	2009年度	2010年度	2011年度
預かり保育日数	年間168日	年間171日	年間165日
預かり保育延べ利用園児数	3019名	2535名	2846名
一日平均園児数	17.9名	14.8名	17.2名

保育日数の年度別差異は、暦の関係による

長期休業中・預かり保育／日数／利用人数等実績

夏期 預かり保育 7～8月	2009年度	2010年度	2011年度
預かり保育日数	14日	16日	19日
預かり保育延べ利用園児数	650名	746名	848名
一日平均園児数	46.4名	46.6名	44.6名

冬期 預かり保育 12月	2009年度	2010年度	2011年度
預かり保育日数	2日	2日	2日
預かり保育延べ利用園児数	83名	98名	119名
一日平均園児数	41.5名	49.0名	59.5名

② 園庭開放（未就園児子育て支援）

園庭開放を年間を通じて実施した。（月１回～２回）このことにより、未就園児並びに在園児も含め、保護者（家庭）との連携を深めた。

尚、参加者は一回のみの参加者、全回参加者も含め84名の個体参加、園庭開放日（10日間、他１日は台風により中止）に来園者総数は延べ**296名**となり昨年度の**419名**と対比すると70.6%と減少となった。各園庭開放日に**29.6名**平均の未就園児が来園となった。また、一昨年度は、過去３年間で 園庭開放参加者、説明会参加者の対比では来園者数が増加したが、2010年度・2011年度は来園者が現象となった。

今後も継続して、園庭開放において 未就園児と保育者の関わりをより広く実践し、幼稚園に対する保護者意識を高めるよう環境を構成し、未就園児保護者の子育て支援事業としていきたい。併せて、就園前の保護者の幼稚園選択の一助となるよう努めたいものである。

	2006/H18	2007/H19	2008/H20	2009/H21	2010/H22	2011/H23
	2007/H19就園	2008/H20就園	2009/H21就園	2010/H22就園	2011/H23就園	2012/H24就園
園庭開放参加者	121名	97名	約80名	144名	138名	84名
9月入園説明会 園庭開放参加者	70名	62名	56名	86名	96名	64名

③ 課外教室

継続して、課外教室を展開し「子育て支援事業」として位置づけた。その教室内容は、以下の通り。

- I. アートクラブ [絵画造形活動・教室名＝アートクラブ／月曜日開講]
- II. スポーツクラブ [体育活動クラブ・教室名＝スポーツクラブ／火曜日開講]
- III. 英語教室 [英語指導教室・教室名＝ECC／水曜日開講]
- IV. 幼児知育教室 [知育・教室名＝プレイルーム／木曜日開講]
- V. 幼児知育教室 [文字、数の指導・教室名＝エンピツランド／金曜日開講]

多くの在園児が課外教室を受講し、広く教育機関としての位置づけが成された。尚、スポーツクラブ及びプレイルームにおいては、卒園後（小学生）も課外教室を受講し、地域の教育センター的な要件を備えるに至った。

第5節. 教育環境設備の充実

2011年度・平成23年度、春期休業中（春休み／2011年3月20日～3月末）に園庭西の駐車場について第一次拡張工事を行ない、来園者駐車場の増設を行った。また、12月～1月において第二次駐車場拡張工事を実施。併せて、北園舎2階年長保育室壁面よりの雨漏りにより、壁面全面防水改修工事を行った。続いて、南園舎園門付近壁面のクラックにより壁面の崩壊が予測されたため緊急に塗装補強改修工事を行った。固定遊具について塗装の消耗により、全面的に塗装改修を行い、遊具の安全化を図った。保護者より洋式トイレの設置について要望があり、今後の保護者対応等を考慮し、南園舎1階の職員トイレに洋式トイレを設置した。2012年度より、預かり保育について午後7時を終業とするため。降園時の照明が必要とされる由を以て灯光機2機の設置を行った。この灯光機は、今後において「お泊り保育」「青葉まつり(夏まつり)」においても活用の趣旨を含めての設置とした。当該改修工事は、昨年度末に一部の工事の精算を含め、2011年度の決算において反映されることとなる。いずれも、教育環境設備の充実を図ることにより、より良い幼児教育を実践できるものとして有効と判断して改修工事を行った。

また、2011年度父母会運営により、幼稚園にテント1張の現物寄贈を受けた。さらに、図書の寄贈(15万円相当)の現物寄付を受けた。テントについては、行事等において広く活用し、図書については園児が常に読むことができるよう環境を調べ、教育環境の充実の一助となった。

第6節. 納付金の減免（入園一時金施設協力金の兄弟姉妹関係児減免措置）

保護者の経済的負担を最小限に抑え、兄弟姉妹関係児の保育料減免措置、併せて空調費の減免措置も実施している。この趣旨に則り、さらに平成21年度入園者より入園一時金の内、施設協力費2万円を在園並びに卒園の兄弟姉妹関係の入園者〔納付義務者＝保護者〕に対して減免措置を執った。継続して平成22年度入園者について同様の減免措置、更に平成23年度入園者についても適用した。〔園則変更済〕

第7節．経営改善計画の策定

標題の「経営改善計画」を平成20年度において向こう5年間の計画を策定した。

- ① 従前より経費節減に努めた。その主な要件は、経費節減並びに減価償却額の減少となり、管理経費支出を抑制、さらに修繕費支出を抑えたが、平成20年度以降継続して、保育室改修工事を実施し、前ページ記載の通り、教育環境の整備を図る趣旨として、毎年度大幅に改修工事等の支出が拡大した。経営改善計画の根幹は上記の経費節減と学籍園児数の増大であり、今後の園児募集活動内容の充実を図る旨の計画を継続立案した
- ② 大阪府私学助成カットが、平成20年度に打ち出され、経常費補助金の削減となったが、配分基準により精査すると、園児減少による園要素の単価減少（140名以下の配分単価／平成20年度本園実員は139名の構成要件）が大きく影響したものと判断でき、園児数拡大が課題と認識した。
- ③ 平成20年度策定の在籍園児数の拡大について、毎年5名の増加を設定した。在籍園児数においては、22年度内に向こう5年目（H25年度）の標値を達成した。これを受け、園児要素並びに教員要素において経常費補助金の増額が得られた。
- ④ 上記①、②を受け、2010年度・平成22年度において継続して「経営改善計画」の修正を行いこれを継続し、幼稚園運営・経営の安定化を目指した。2011年度・平成23年度は、この修正経営改善計画を基本に事業運営に取り組んでいるところである。但し、経常費補助金内の「経営改善計画策定による補助金」については、その配分要件である「前年度決算による「（帰属収入－消費支出）÷帰属収入」が0％以下であること」が満たされない決算結果となり、2010年度・平成22年度は、40万円の補助金交付は交付されない状況となった。また、2011年度・平成23年度においても同様となった。
- ⑤ 上記④を受け、併せて2012年度・平成24年度より事業運営を行う「大阪府スマイルチャイルド事業」の趣旨により、幼稚園開園11時間、預かり保育の時間延長（早朝午前8時登園・午後7時終業）を実施することにより、年度内において新たな「経営改善計画」を策定し、幼稚園運営・経営の安定化を目指すものである。

今後当初の「経営改善計画」の趣旨に則り、当該年度の修正を加えながら計画を推進するものである。平成20年度より、大阪府私学助成削減の方針が大阪府により行政改革として実践され平成22年度以降においても2.5％カットが表明されたが、本園の場合は「借入金返済」が大きな要件を占め経常費補助金削減は大きな衝撃である経常費補助金交付を本来とせず、本園としての教育運営を实践すべきが責務と認識するが、ここ数年の園児減少を捉えたと経常費補助金の交付趣旨並びに増額が有効となるよう経営努力すべきと感じる。併せて、私立幼稚園本来の教育内容、本園「建学の精神のより充実」に向けての努力研鑽に励むべきと痛感するものである。

第8節．大阪府私立幼稚園経常費補助金

平成23年度大阪府私立幼稚園経常費補助金の配分基準により、42,193,000円の補助金交付となった。これは、平成20年度より対比すると11,000千円の増額とな。その主な要件は、園児数の増加と教員数の増加によるものと認識する。本園財務状況の厳しさに対して幾らかの好転となり、前述の保育室他改修工事の大きな糧となった。

経常費補助金 年度別交付実績（単位千円／下段は学籍数・当該年度5月1日時点）

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
38,426	38,830	35,223	33,627	34,150	31,193	36,992	40,391	42,193
213名	210名	191名	160名	154名	139名	151名	174名	191名

第9節．枚方市／平成23年度幼稚園幼児教育助成モデル事業

枚方市より、平成22年度に引き続き、幼児教育助成モデル事業として補助金交付が成された。その趣旨は、「平成21年度に改定された幼稚園教育要領において、幼児期における教育の重要性が位置づけられ、教育要領改定の趣旨を踏まえた小学校への円滑な接続、地域や家庭との連携等、幼稚園が行う特色ある幼児教育の取り組みに対して、平成21年度から平成23年度までの三年間助成を行うことで幼稚園教育の充実を図る」とされている。

標題の事業について昨年（平成22年度）に引続き、本園もこれを申請し、補助が成される見込みとなった。（上限30万円）その事業申請の内容は、①地域の自然、人材、行事、公共施設を活用し、幼児に多様な体験をする機会を提供する事業。②幼児教育の充実に資する事業。（園庭開放等）以上の事業の申請により、枚方市より標題補助金30万円の交付決定となった。（2012年3月交付）

第10節. 保護者交付各補助金

私立幼稚園就園奨励費補助金をはじめとする2011年度・平成23年度保護者交付金は、以下の金員が京都府並びに各市町村・行政機関より補助金交付となり、本園より保護者に配分した。これにより、私立幼稚園就園児 取り分け本園の保護者負担を軽減し、幼児教育の一層の充実させる趣旨の通り達成された。

大阪府私立幼稚園保育料軽減補助金		2011年度より廃止	—
枚方市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	9,733,100	105名
京都府私立幼稚園保育料軽減補助金	3～5歳児交付	540,000	30名
八幡市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	1,788,400	18名
京都市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	140,400	3名
京都市私立幼稚園就園教材補助金	3～5歳児交付	494,000	9名
京田辺市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	111,000	1名
枚方市私立幼稚園保育助成金補助金	3～5歳児交付	5,314,400	160名

(枚方市私立幼稚園保育助成金補助金は、枚方市教育委員会より直接保護者に交付)

第11節. 組織運営体制

① 理事長・理事会の役割と責任

従前より理事長・山口亨は、体調不調が続く、幼稚園に赴いての現認することが困難な状況となった。そのため、法人業務及び幼稚園業務運営については、代表権のある副理事長・山口尚志(園長)がこれを執行し、何ら差し障りのない処理を行い、業務を遂行している状況である。これは、副理事長(園長)が理事長に詳細にわたり報告・説明を成し、法人運営について円滑化されている点、併せて、私立学校法改正の際に、本法人の代表権のある副理事長としたことより、何ら問題が生じていない現状である。

② 幼稚園運営体制

従前通り、平成23年度中においても「園務分掌規程」に基づき、業務を分掌し、合理的で機能的な幼稚園運営を図った。また「行事担当分掌」についても職員の責任と自覚のもと遂行され、反省課題はあるものの円滑な園運営がなされた。

第12節. 教員の資質向上

2011年5月7日	製作活動	年少学年／内藤教諭・全教員
-----------	------	---------------

① 園内における保育研究

平成23年度、園内での「研究保育」を実施した。当該保育内容について全教諭より、指導助言等を行い総合評価を行った。全教諭は、研究保育及び評価反省会を日々の保育に活かした。

② 園外における研修

平成23年度、園外での「研修会」に下記の通り、参加した。

2011年5月1日	医療と教育では「発達障がい」をどのように捉えるのか	大阪医科大学LDセンター／主任参加
2011年5月22日	発達障がいをうたがう子どもへの対応	大阪医科大学LDセンター／園長参加
2011年12月17日	発達に課題のある子どもへの遊びを通じた支援	大阪医科大学LDセンター／主任参加

第13節. 園児健康管理

平成23年度中に下記の園児健康管理を行った。

- ① 毎月(8月度は除く)身長、体重の測定 ② 5月、9月、12月、3月 胸囲、座高の測定。
- ③ 学校保健法により右記の健康診断を実施。検尿検査5月10日、寄生虫検査5月6日、歯科検診6月1日 内科検診6月16日実施。4歳児・5歳児については視力検査を実施。
- ④ 園児健康管理上において特記すべき事項

インフルエンザの罹患状況

2012年1月10日以降の園児インフルエンザ罹患による欠席状況は、30名台に留まった。尚、学級単位の臨時休園措置(学級閉鎖)の対処はこれを執っていない。

第14節. 職員健康管理

職員健康診断、平成23年6月23日実施

第15節. 幼稚園行事（事業）の概要 報告

04/04	第35回入園式	09/01	2学期始業式	01/10	3学期始業式
04/11	1学期始業式	09/23	運動会	02/03	節分
04/28	子どもの日の集い	09/30	敬老の集い	02/18	生活発表会
05/12	遠足(枚方パーク)	10/14	遠足(琵琶湖博物館)	03/02	雛祭り
06/01	歯科検診	10/28	いもほり	03/12	お別れ会
06/16	内科検診	11/19	作品展	03/16	第35回卒園式
06/19	日曜参観	11/24	移動動物園	03/19	平成23年度終了式
07/01	お泊まり保育	12/05	楽団公演		
07/19	1学期終了式	12/09	音楽会		
07/23	青葉まつり(夏祭)	12/20	2学期終了式		

第16節. 学籍報告・学事報告

平成23年度 学籍 2011年5月1日現在

3歳児67名 4歳児67名 5歳児57名
合計191名

年少学年	学籍	男児	女児
すみれ	16	7	9
たんぽぽ	17	8	9
ばら	17	8	8
もも	17	9	8
小計	67	32	35
年中学年	学籍	男児	女児
うめ	22	12	12
きく	23	12	11
さくら	22	11	11
小計	67	35	32
年長学年	学籍	男児	女児
たけ	28	19	9
ゆり	29	17	12
小計	57	36	21
全学年	学籍	男児	女児
合計	191	103	88

平成23年度 卒園児就学小学校 (就学は平成24年度)

就学 小学校		たけ	ゆり	合計
枚方市立	樟葉北小学校	2	4	6
	樟葉	8	6	14
	樟葉西	3	3	6
	船橋	1	3	4
	樟葉南	2	3	5
	牧野	1	1	2
	殿山第二	—	1	1
	小倉	—	1	1
	招提	—	1	1
	平野	1	—	1
	菅原東	1	—	1
八幡市立	橋本	4	—	4
	さくら	—	1	1
	くすのき	1	—	1
	美濃山	—	1	1
	南山	1	—	1
	八幡	—	1	1
京都市立	明親	—	1	1
学校法人（私立）	大阪聖母	1	—	1
	京都文教短大付属	—	1	1
埼玉県	東松山市立松山第一	1	—	1
大阪府	柏原市立柏原東	—	1	1
	合 計	27	29	56

学籍の推移 [資料]

年 度	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	合 計	入園児数	年度末卒園児数	納付金年額
昭和52年	—	48／2組	31／1組	79／03組	79名	31名	120000
昭和53年	—	122／3組	62／2組	184／05組	141名	62名	120000
昭和54年	—	157／4組	122／3組	279／07組	167名	122名	132000
昭和55年	23／1組	162／4組	150／4組	335／09組	197名	150名	132000
昭和56年	35／1組	190／5組	151／4組	376／10組	202名	151名	132000
昭和57年	44／1組	231／6組	189／5組	464／12組	248名	189名	132000
昭和58年	40／1組	276／7組	212／6組	528／14組	277名	212名	132000
昭和59年	26／1組	244／7組	237／6組	507／14組	211名	237名	132000
昭和60年	54／2組	206／6組	216／6組	476／14組	179名	216名	144000
昭和61年	42／2組	211／6組	191／5組	444／13組	209名	191名	144000
昭和62年	42／1組	179／5組	188／5組	409／11組	186名	188名	144000
昭和63年	38／2組	132／4組	160／4組	330／10組	140名	160名	144000
平成01年	50／2組	165／5組	123／4組	337／11組	184名	123名	156000
平成02年	58／2組	147／4組	159／5組	364／11組	160名	159名	156000
平成03年	44／2組	215／4組	139／4組	308／10組	123名	139名	156000
平成04年	75／3組	90／3組	126／4組	291／10組	129名	126名	156000
平成05年	34／2組	112／4組	87／3組	233／09組	80名	87名	168000
平成06年	42／2組	84／3組	105／3組	231／08組	94名	105名	168000
平成07年	60／3組	60／3組	82／3組	202／08組	87名	82名	180000
平成08年	71／3組	92／3組	59／2組	222／08組	108名	59名	204000
平成09年	42／2組	93／3組	86／3組	221／08組	76名	86名	228000
平成10年	88／4組	55／2組	90／3組	233／09組	107名	90名	228000
平成11年	65／3組	99／3組	59／2組	223／08組	90名	59名	252000
平成12年	57／3組	80／3組	92／3組	229／09組	77名	92名	252000
平成13年	66／3組	72／3組	74／3組	212／09組	84名	74名	252000
平成14年	59／3組	75／3組	80／3組	214／09組	79名	80名	252000
平成15年	66／3組	74／3組	73／3組	213／09組	82名	73名	252000
平成16年	53／3組	84／3組	73／3組	210／09組	71名	73名	252000
平成17年	52／3組	57／2組	82／3組	191／08組	60名	82名	252000
平成18年	47／3組	56／2組	57／2組	160／07組	53名	57名	252000
平成19年	53／3組	47／2組	55／2組	154／07組	57名	55名	252000
平成20年	42／3組	51／2組	46／2組	139／07組	46名	46名	252000
平成21年	51／3組	47／2組	52／2組	151／08組	57名	51名	252000
平成22年	66／4組	57／2組	51／2組	174／08組	75名	51名	252000
平成23年	67／4組	67／3組	57／2組	191／09組	71名	57名	252000

第17節. 財務状況報告

2011年度・平成23年度の財務状況については、法人監査人2名及び監査法人・公認会計士より、適正に運営されていると認められた。計算書類〔消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表・財産目録〕については、後に本書とは別に本園オフィシャルホームページにてこれを報告・公開する。尚、特記すべき項目は、学籍増による「学生生徒納付金」の増額。また施設設備改修にともなう支出が増額となった。この施設設備改修には、緊急防水改修工事等の緊急を要する改修が含まれている。

第18節. その他の報告

① 未就園児教室の開講

未就園児教室キディクラブを2011年4月より、18名の入会者を以て開講した。業務提携（委託）を齋エルステップスに業務委託し、本園と補完関係を執りながら未就園児子育て支援事業を行った。また10月より、未就園児親子教室として齋学研と業務提携（委託）し本園入園児をその会員として開講し、子育て支援事業とした。

② 未就園児（在園児）園庭開放の実施

子育て支援事業として「園庭開放」を実施した。2011年4月より2012年3月までの期間、土曜日午前中の開催とし、年間継続して10日間実施。また、夏まつり（青葉まつり7月）、運動会（9月）、文化祭作品展（11月）に招待し、子育て支援を図った。

③ 小学校との連携・交流

2012年2月28日、枚方市立樟葉北小学校のご理解とご協力のもと、2年生児童と交流会を実施した。本園年長児が就学への期待を高め、且つ異年齢児による交流を深め「人間関係・コミュニケーション」の育成に教育効果があった。

④ ホームページの更新と情報公開

以下の通り、ホームページ更新を行ない「情報公開」を行った。

2012.03.26	「感動の声・卒園に際して」更新
2012.03.06	「幼稚園での食事・給食献立と画像」更新
2012.03.02	「感動の声・入園志望の動機」更新
2012.03.01	「学費・納付金」更新
2012.02.01	「お知らせ・保護者宛情報発信のページ」「幼稚園生活・一日の流れ」「預かり保育」「入園説明会・園庭開放のお知らせ2012年度版」「2012年度未就園児教室」更新
2011.10.12	「感動の声」更新
2011.09.13	「トップページ」リニューアル
2011.09.01	「園児募集要項2012年度版」更新
2011.08.10	「保護者交付の補助金」更新
2011.08.08	「元気を支えるくずは青葉幼稚園・保育概要」更新
2011.08.02	「学費・納付金」「保護者交付の補助金」更新
2011.08.01	「アルバム」「感動の声」「感動の声 入園志望の動機」更新
2011.07.29	「アクセス」「幼稚園生活 一日の流れ」更新
2011.07.28	「ようこそ！青葉幼稚園へ」「建学の精神」「教育方針・指導方針」更新
2011.07.27	「学園環境」更新
2011.07.25	「沿革」更新
2011.06.02	「幼稚園概要・情報公開(財務状況公開)」更新
2011.05.09	「トップページ」リニューアル
2011.05.06	「保育概要」「安定の1学期」更新
2011.04.28	「幼稚園概要・情報公開」更新
2011.04.04	「ようこそ！青葉幼稚園へ」「元気をささえるくずは青葉幼稚園」「沿革」「教育指針」更新
2011.04.01	「幼稚園概要・情報公開(事業報告書、自己評価・学校評価)」更新
2011.03.31	「お知らせ 保護者宛情報発信ページ」の『危機管理マニュアル』を2011年度版に更新

経営理念（本報告書第2節第①項）並びに本学園の使命（第②項）に基づき「本園教育内容等の情報公開」「子育て支援情報」や「学校評価」「財務状況」等を公開した。さらに「園日誌」というタイトルにて日々の園児の生活の様子教育活動等を情報公開した。（園児画像等についての掲載については、年度初に保護者より全て了承を得、公開した）

このことにより、広く幼稚園教育内容や本園の教育方針を十分に一般的に理解を得ることができたものと確信する。

⑤ 高齢者との交流会 年長児・枚方市立くずは北サービスセンター訪問事業

2011年度においても年間10回、下記の学級別の日程で訪問した。高齢者と手遊びやゲーム等を楽しく行ない、関わりを深めた。園児は、「高齢者を敬う心」はもちろんのこと「人との関わり」の大切さを体得した。（2月は2クラス合同で訪問）

たけ組	5月26日	6月27日	10月25日	12月1日	2月28日
ゆり組	5月13日	6月7日	10月7日	11月29日	2月28日

⑥ 2011年度通園バス運行

大型幼児専用バス（ライオン仕様・いぬ仕様）2台、小型幼児専用バス（普通車ライオン仕様）1台、合計3台の通園バスにより、各バス3方面（コース）合計9方面（コース）の路線を編成し運行した。これは、2010年度対比1コースの増設となった。この要因は園児数の増加により、乗車定員並びに大阪府大学私学課の指導による「通園バス園児乗車最大時間40分」を厳守したための1コース増とした。園児に長時間乗車に対する負担のなきよう各路線最大乗車時間を39分、最小乗車時刻を8分、平均乗車時間を28分の路線編成し運行した。（乗車時間とは、最初に乗車した園児が幼稚園に到着するまでの時間をいう。従って乗車園児の無い運行時間は乗車時間に含まず）通園バス利用児数は、150名となり、2010年度129名より21名の通園バス利用児の増加となった。（2012年3月1日時点）

尚、上記に記述の「通園バス運行最大40分」の大阪府指針により、昨年対比1方面（コース）の増路線としたことにより、運行距離が増加し車両燃料費支出が拡大の状況となった。

⑦ 2011年度給食実施状況・食育の取り組み状況

年間、93回の給食を供給した。入園・進級当初（4月）は「集団で食する食事」としての安定に重点をおき、食べやすい環境を調えメニューは「パン給食と牛乳」を中心とし、5月より米飯給食の供給をはじめた。また、米飯給食は、アレルギー対応食を個別に供給し、「食の安全」を確保し、定期的に「無農薬米・無農薬野菜」を食材として採用した。また、特別食として ちらし寿司、きつねうどん、揚げそばの中華あんかけ、スパゲティ等、メニューの充実に努めた。園児にとって和やかでおいしい給食の位置づけが成された。また「食育」の一環として、栄養の三要素の話等、食育に関する指導を行ない、食に対する意識の向上に努めた。さらに、「餅つき（＝お餅を食す）」「芋ほり（＝収穫の喜びと同時に蒸かし芋を食す）」「雛祭り（＝由来を知り食す）」等の行事を通して園児の食への関心を深める指導を実践した。

また、保護者に向けて、6月に「給食試食会」並びに「園児の食事の様子を参観」を実施した。

※ 2009年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	4	7	11
5	4	5	9	12	2	4	6
6	5	7	12	1	3	5	8
7	2	4	6	2	4	6	10
8	0	0	0	3	4	5	9
9	4	6	10	計	41	55	96
10	4	6	10		42.7%	57.3%	100%

※ 2010年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	5	6	11
5	4	6	10	12	3	4	7
6	4	8	12	1	3	5	8
7	2	3	5	2	4	7	11
8	0	0	0	3	2	5	7
9	5	7	12	計	40	58	98
10	3	7	10		40.8%	59.2%	100%

※ 2011年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	4	6	11
5	3	5	8	12	2	3	6
6	4	9	13	1	3	6	8
7	1	2	3	2	4	6	10
8	0	0	0	3	3	6	9
9	4	6	10	計	38	55	93
10	5	6	11		40.8%	59.2%	100%

2011年度の給食供給数は、各年度と対比して「暦」の関係により、回数減少。[毎週、月・水・木曜日を給食供給日と固定]

⑧ 銀行借入金に関して（第7節に関連して）

平成19年11月に借入先、京都銀行くずは支店に借入利率の縮小を依頼、協議の結果、0.25%引下げの合意が成され、3.125%の借入利率となり平成20年度予算作成に至った。また、平成21年度中において借入利率について京都銀行との協議交渉の結果、2.925%となった。さらに平成22年度5月に社会情勢等諸般事情を踏まえ再度借入利率の協議交渉の結果、2.425%と条件変更の契約を実施。その後、年度内10月、園児募集・入園願書受付を行ない、おおよその次年度学籍が見込める状況となり、再度借入利率の条件変更について申し入れ、協議の結果、同年12月末日返済時より、**2.175%の借入利率**の条件変更契約を締結した。

これらの経緯のもと、2011年度において更なる借入利率の条件変更を申し入れ、協議の結果2.075%の条件変更が2011年12月に契約更新を行った。本園にとって財務運営上、好ましい方向となった。

⑨ 園則変更について

本園の園則における始業時刻は、午前8時と定めていた。然るに、事実要件としてその実態は、開園以来 概ね午前9時30分を一斉保育開始時刻としていた。今般、平成24年度より幼稚園開園11時間、早朝よりの預かり保育を運営するに際し、実態に則した園則であることが、合理的と判断し「園則変更」を大阪府・私学大学課に届け出た。

[大阪府・私学大学課、2012年2月1日受理]

⑩ 平成24年度事業計画策定に際しての特記事項

2011年10月から次年度事業計画の策定に入り、2012年1月にその要件を確定した。この事業計画の主な内容は、以下の通り。

- A) 現行の「預かり保育事業」を終業を午後7時まで延長する。また、早朝預かり保育とし午前8時より園児の受け入れを行う。費用については、平成20年度策定の「経営改善計画」のもと、本来は費用改訂(値上げ)の予定であったが、これを据え置き 延長時間分の追加費用を設定した。
- B) 子育て支援事業として2形態の未就園児教室を開講する。一つは親子未就園児教室、ひとつは親子分離未就園児教室。
- C) 園庭開放を休業日の土曜日に開催し、子育て支援事業を実施する。(昨年同様)併せて、教育相談等を受け支援事業とする。また、次年度よりは通常保育時に「親子体操教室」を3回実施し、子育て支援事業を充実させる。

第19節. 沿革 -1

和51年 1976年	5月2日 理事長・山口亨「建学の精神」を考察
昭和52年 1977年	2月22日 学校法人山口学園 法人認可を大阪府知事より受ける 4月10日 第1回入園式挙行 園地（開園当時） 合計 4249.0m ² (1287.5坪) 園舎面積 402.9m ² 延床面積 855.7m ² 鉄筋コンクリート造り〔保育室5室、遊戯室1室、職員室、園長室の構成にて開園〕 学籍園児数 79名〔4歳児48名、5歳児31名〕幼稚園教育事業開業
昭和53年 1978年	開園二年を経過し、園児数増加を見込み、園舎増築を検討、計画。学籍園児数184名。
昭和54年 1979年	園舎増築工事完成 園舎面積 466.6m ² 延床面積 874.8m ² 鉄筋コンクリート造保育室・新職員室増築。学籍園児数274名。
昭和55年 1980年	園児数増加により、第二次園舎増築を検討、計画に入る。 学籍園児数335名。
昭和56年 1981年	園舎増築工事完成 園舎面積 83.1m ² 延床面積 139.2m ² 鉄筋コンクリート造 保育室2室を増築。学籍園児数376名。
昭和57年 1982年	園児数増加により、遊戯室新築を検討、計画に入る。 学籍園児数464名。
昭和58年 1983年	遊戯室増築工事完成（新遊戯室） 園舎面積 317.4m ² 延床面積 317.4m ² 鉄骨造 遊戯室増築。在籍数528名。

第19節. 沿革 -2

昭和59年 1984年	コンピュータ導入し学籍管理他の処理を開始。学籍園児数507名
昭和61年 1986年	開園10周年記念事業として「幼児教育セミナー」開催 [講師:井上敏明 (教育評論家・六甲カウンセリング研究所所長) 講演] 記念誌 タブロイド版20頁作成、園児、卒園児に記念下敷配付。学籍園児数444名。前年度対比63名の園児数減
昭和62年 1987年	園児定員500名を大阪府に申請 (定員増申請) 400名の認可を受ける。 学籍園児数409名
昭和63年 1988年	学費口座引落処理をコンピュータ処理開始 [銀行口座振替システム運用] 学籍園児数330名。前年度対比79名の園児数減少。
昭和64年平成元年 1989年	学費 (保育料) 年間、156000円に改定。 学籍園児数337名
平成 2年 1990年	文部省幼稚園教育要領の改訂により園則変更する。就業規則等改定、労働環境の整備を図る。学籍園児数364名。(前年度対比27名の園児数増)
平成 3年 1991年	幼稚園パンフレットタブロイド版8頁作成。開園15周年記念として父母会より「太陽電池時計」寄贈。学籍園児数307名。(前年度対比57名の園児減少)
平成 4年 1992年	学校週5日制を導入 園則変更する (平成4年9月より実施) 文部省幼稚園教育要領の趣旨に則り少人数学級編制を採用、園則変更。(1組40名定員を35名定員変更、3歳児は25名定員) 学籍園児数291名。
平成 5年 1993年	米飯給食を導入。 学費 (保育料) 年間、168000円に改定。学籍園児数233名。(前年度対比58名の園児減少)
平成 6年 1993年	米飯給食を導入し、給食の充実を図る。 学籍園児数231名。
平成 7年 1995年	園地の拡大、合計 5386.1m ² (1632.1坪) 理事長・山口亨 大阪府知事より教育功労者表彰 受彰 青葉スポーツクラブ創設 (スポーツクラブ開設) 第2回 枚方チャイルドサッカー大会出場 優勝幼児体育指導を教育課程に編纂。学校週5日制を導入の拡大、園則変更する (平成7年4月実施) 学籍園児数202名。
平成 8年 1996年	開園20周年を迎え、諸行事等の見直しを行う。学費 (保育料) 年間、204000円に改定。学籍園児数222名 (前年度対比20名の園児数増)
平成 9年 1997年	預かり保育の実施、子育て支援の充実を図る。学費 (保育料) 年間、228000円に改定。学籍園児数221名。
平成10年 1998年	夏期保育の長期化並びに夏期保育中の預かり保育拡大。学籍園児数233名。
平成11年 1999年	少子化対策臨時交付金 (補助金) にて園舎・保育室改修工事を実施。学費管理システムPCソフト導入。学費 (保育料) 年間225000円に改定。学籍園児数223名。
平成12年 2000年	ホームページ開設 情報公開並びに幼稚園教育内容広報発信を開始。山口亨園長退任、山口尚志園長就任。学籍園児数229名。
平成13年 2001年	入園願書、Emailにて入園受付開始。学籍園児数212名。
平成14年 2002年	食育をテーマに講演会開催 講師:大和学園理事長 田中幸雄氏。学籍園児数214名。
平成15年 2003年	園舎改修 [体育倉庫、備品倉庫、年少保育室空調設備設置] 学籍園児数213名。
平成16年 2004年	異年齢児複合教育活動の本格化 (縦割り保育) 父母会運営組織の変革。全保育室並びに遊戯室に空調設備を完備。学籍園児数210名。
平成17年 2005年	課外教室として幼児英語教室 (ECC)、幼児プレイルーム (学研)、未就園児教室を開講。異年齢児複合教育活動 (縦割り保育) の継続。教育講演会開催 講師:大和学園理事長 田中幸雄氏。学籍園児191名。

第19節. 沿革 -3

平成18年 2006年	開園30周年を迎える。園庭開放を実施し、未就園児子育て支援事業に取り組む 異年齢児複合教育活動（縦割り保育）の継続。課外教室エンピツらんど開講。理事山口尚 志、法人の代表権を有する副理事長就任。 学籍園児数 1 6 0 名（前年度対比 3 1 名の園 児数減少）
平成19年 2007年	園庭開放を継続実施し未就園児子育て支援事業を拡大。異年齢児複合教育活動（縦割り保 育）の継続。課外教室「こどもアートクラブ」開講。園内改修〔預かり保育室・年中園舎 手洗い場・園庭西花壇・園地周りフェンスの改修〕 学籍園児数 1 5 4 名。
平成20年 2008年	園庭開放日を月2回とし未就園児子育て支援事業を拡大。未就園児教室キディクラブ開 講。夏休み預かり保育開始。給食内容について改良改善、従来にましてアレルギー食への 対応を実施。学籍園児数 1 3 9 名（前年度対比 1 5 名の園児数減少）
平成21年 2009年	学校評価・自己評価をホームページに公開、併せて財務状況について公開。異年齢児によ る教育活動のより充実に努め、その活動期間の長期化を図る。園庭開放を継続実施。夏休 み預かり保育の拡大実施並びに冬休み預かり保育の実施。年度末（2010年3月）に平成22 年度向け、保育室6室改修工事（室内手洗場、保育室ドア改修他）並びに園内花壇の安全 改修工事を実施。その他の改修工事（屋上防水塗装、園庭境界部分塗装の各修繕工事） を実施完了。学籍園児数 1 5 1 名
平成22年 2010年	学校評価・自己評価、財務状況について公開。園庭開放事業を継続。平成21年度に引き続 き、保育室改修工事を施工し、園児教育環境整備を整える。学籍園児数 1 7 5 名
平成23年 2011年	本書、事業報告の通り。学籍園児数 1 9 1 名

以上、文責／園長 山口尚志 本書は16ページを以て成す

2011年度・平成23年度 学校法人山口学園くずは青葉幼稚園の
教育事業について、以上の通り報告する。

2012年・平成24年4月1日

くずは青葉幼稚園

園 長 山口尚志

(代表権のある学校法人山口学園 副理事長)



学校法人山口学園

理事長 山口 亨





Yamaguchi Gakuen Educational Foundation

2011年度・平成23年度 事業報告書

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

<http://www.k-aoba.ed.jp/>

〒573-1102 枚方市北楠葉町38番1号

電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944

Mail address info@k-aoba.ed.jp

2012年4月1日発行